



第234号紙面案内

第3面・・・平成17年度第1回関東部会報告

第4面・・・山城賞の受賞と評価

第5面・・・第52回全国研究大会参加のご準備を！

韓国経営教育学会 大会参加記

(平成17年4月28日～5月1日 於 韓国)

當間 政義 (東京農業大学)

2005年4月30日に、韓国経営教育学会と日本経営教育学会、日本商業経営教育学会の合計3つの学会と中国、フィリピンからの出席者を加えて、2005年度春季国際学術発表大会が韓国の円光大学校において開催された。

4月29日は、韓国におけるITのベンチャー企業の象徴ともいえるべき Congnamul を視察した。この会社の名前は、「もやし」を意味し、若者に非常に人気のあるベンチャー企業である。先進的な地図検索サイトで、1996年に創業した。以来、年間150%もの成長を遂げており、韓国のインターネットのポータルサイトとしては、知らない人がいないくらい有名なサイトである。



韓国 IT 企業を訪問

夕方には、韓国経営教育学会が主催者となって、歓迎会および理事会を兼ね、晩餐会を開催していただいた。飡富会長の挨拶を始め、中国やフィリピンの学会関係者からの挨拶が行われた。この席上、韓国経営教育学会から本学会の飡富順久会長に対して「功労賞」が授与され、賞状と盾が手渡された。

翌30日は、益山駅から韓国版の新幹線ともいわれる KTX に乗車した。仏国の TGV の輸入ではあったが、車中にて表示されている速度をみると 298km/h であった。(次頁へ)

(前頁より) ととてもびっくりしたが、日本の新幹線とは比べものにはならない安定度であった。龍山駅にて下車をし、学会関係者の先生達が自ら運転する車で、円光大学校へ到着した。日本ではみられない程の規模や庭園のすばらしい光景はとても見事の一言につきる。広大なキャンパス内の学食で昼食をとった後、大会の会場へと移動することになる。そこでは、とても様々な視点から、「経営教育」に対する議論が行われた。韓国の学会の様相を目の当たりにした。納得いくまで議論し合うというスタンスは、時に与えられた時間を退けるほどの白熱したものであった。



海外参加者歓迎会にて
鉄富会長挨拶

5月1日、ソウル市内を観光しながら空港へ向かい、岐路へ立つ。

今回の韓国における3泊4日の行程の間に感じた「韓国」は、反日感情の高まる中、観光客が次々に旅行を中止するということがニュース等で報じられていたが、反日感情は全く感じられず、寛容性のある穏やかな印象であった。また、何よりも大切なことであるが、韓国経営教育学会に参加して、「経営教育」に焦点を当てた研究の重要性をあらためて知る機会にもなった。とりわけ、「環境に対する経営教育のあり

方」の重要性を痛感することにもなった。

最後になりましたが、韓国経営教育学会々長の李鐘浩先生、柳韓大学の梁在英先生には、今回の韓国における行程の最初から最後まで、とてもお世話になりました。そして、新潟経営大学の石井泰幸先生には、終始丁寧な気遣いと心持で大変お世話になりました。ここに厚くお礼を申し上げます。



韓国 円光大学校にて

平成17年度第1回関東部会報告

福田 好裕 (和光大学)

平成17年5月28日(土)、立教大学において今年度第1回の関東部会が開催された。

第1報告は、小野瀬拡氏(東洋大学大学院)による、「ベンチャー企業の存続に関する研究」、司会兼コメンテータは前田文彬氏(立教大学)であった。第2報告は、榎谷義雄氏(立教大学大学院)による、「経営者の交代と戦略の変更」、司会兼コメンテータは小林麻里氏(早稲田大学)であった。第3報告は、水尾順一氏(駿河台大学)による、「戦略的CSRマネジメントの体系化に関する一考察」、司会兼コメンテータは小川達也氏(東京富士大学)であった。

3つとも、先行研究の綿密なレビューに基づいた上での、具体的な実証・ケース研究報告がなされた。それぞれの報告終了後、司会兼コメンテータおよびフロアからの質疑に対して、丁寧な応答がなされ、報告を補完するのに余りあるものであった。

報告終了後、立教大学近くの「フォアモサ」にて、懇親会が開催され、会員間の親睦・交流を深めると同時に報告内容に対する更なるディスカッションが行われた。

今回の部会にあたって、周到な準備・示唆に富む報告を实践された報告者各位、実りの多い議論へと導いていただいた司会兼コメンテータの先生方、スムーズな運営にご尽力された会長・部会長ならびに立教大学関係者の労に、参加者を代表して、お礼を申し上げるしだいであります。本当に勉強になりました。ありがとうございました。

特定研究プロジェクト募集!!

至急

特定研究プロジェクトは、本学会の時宜にあった共同研究の高揚を図ることを目的としています。募集要領は次のとおりです。多くのご応募をお待ちしています。

- 1 応募資格：共同研究に参加できる研究者は、本学会の会員とする。
- 2 研究テーマ：当学会の目的と合致する研究テーマであり、時宜にあったものとする。
- 3 研究代表者の確定と研究計画書の提出：研究代表者は、研究計画書(研究テーマ、研究目的、研究組織[3名以上]、研究実施計画)を添えて会長に提出する。
- 4 研究活動費：採択された研究プロジェクトへ研究活動費が支出される。
- 5 申請と採択：申請希望者は、所定の申請用紙に必要事項を記入し、事務局(会長宛)へ提出すること。継続研究の場合でも、単年度申請とする。申請の採択については、会長のもとで行う。
- 6 研究成果：研究の成果については、当学会の全国研究大会において研究報告を行う。
- 7 報告：研究期間終了後、研究成果の報告についての概要を速やかに会長に報告する。

山城賞 その成果と意義

祝受賞 辻村 宏和 著

『 経営者育成の理論的基盤

— 経営技能の習得とケース・メソッド — 』

河野 重榮 (獨協大学名誉教授)

山城賞の候補として推薦されたのは著書7点であった。山城賞委員会では、上記著書を山城賞候補として選定し、2004年10月25日の理事会に提出し、理事会は上記著書を山城賞に決定した。

上記著書の概要と選定理由をのべよう。

本書は、既存の経営理論の適用で経営問題を解くという思考・教育方法（説明目的の経営学）を批判し、経営者育成（経営問題解決能力ないし経営技能の育成）のための経営学（経営学の実践性）の樹立を目的としている。経営実践は経営者の反応行動ではなく、決断的行動（理論では解けない、理論が活用できない局面での決断）に深く関わっている。著者は経営技能の中心概念として、管理プロセスをこえた非管理プロセス（N-MP）— 個別的総合的性格の大きい、非公式で、属人性の高い、非実証性の強い、複雑な行動特性をもつ領域— を提示し、ケース・メソッドを通じた経営教育の体系化を自らの課題としている。

経営技能（N-MP）は良質なケースの分析を通じて経営者の苦悩を実感する中で養成されるからである。

ついで、ケース分析を通じての経営技能の獲得に関して「経営観→問題発生図式→経営者の心得→ケース開発」というステップが詳述されている。

本音は書名副題に示されているように、「経営技能とケース・メソッド」に多くの頁数を当てている。

著者は本学会の創設者山城章の主張する実践経営学の趣旨を明確に理解し、故桜井信行博士、故坂井正広会員によって開拓されてきたケース・メソッド研究を経営教育方法論まで高める成果を本書で示している。

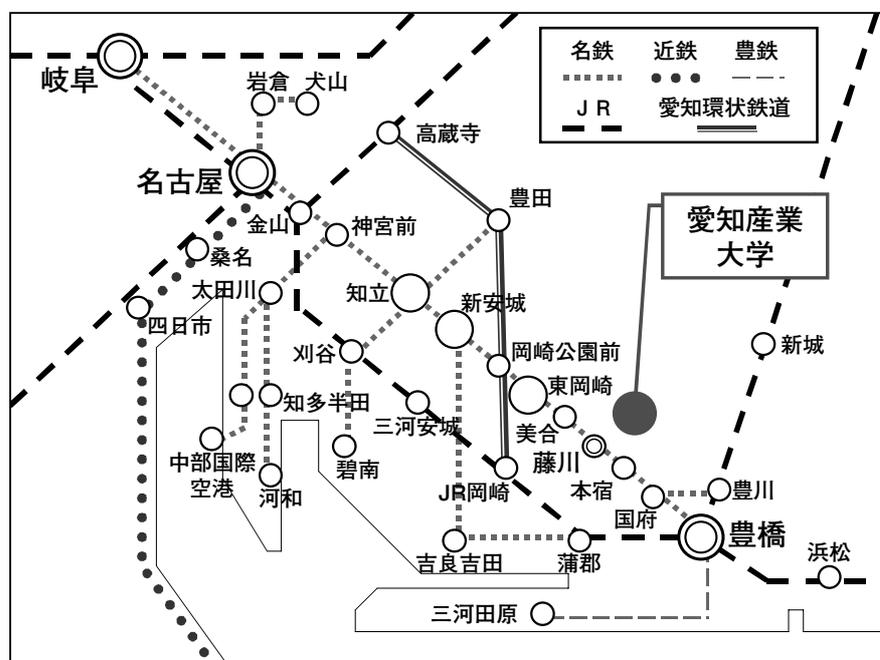
本書は本学会の目的とする実践経営学の更なる発展に大いに寄与するものと考えられる。

第52回全国研究大会参加のご準備を！

第52回全国研究大会が、2005年10月28日（金）～30日（日）に開催されます。先にお知らせしましたように、開催校は愛知産業大学（岡崎市岡町原山12-5）に決定いたしました。同校のHPアドレス等を掲載いたします。大会参加に向けて、開催校および周辺情報等を早めに収集され、実り有る大会参加となりますよう、期待いたしております。

なお、5月31日締め切りの「自由論題募集」には、全国から多くの応募がありました。現在、大会準備委員会にて鋭意、大会プログラムの作成に励んでおります。

例年にも増して、数多くの方々が参加されますようお願いしております。



愛知産業大学のHPアドレス <http://asu-g.net/univ/>

●名古屋方面からの場合【電車利用案内】

名鉄本線「名鉄名古屋」駅から41分（豊橋行・特急）→「東岡崎」駅・乗り換え（伊那／本宿方面・普通）→「藤川」駅下車

名鉄本線「名鉄名古屋」駅から45分（豊橋行・快速急行）→「美合」駅・乗り換え（伊那／本宿方面・普通）→「藤川」駅下車

●豊橋方面からの場合【電車利用案内】

名鉄本線「豊橋」駅から31分（岐阜行・急行／快速急行）→「本宿」駅・乗り替え（東岡崎方面・普通）→「藤川」駅下車



第2回関東部会のご案内

関東部会長 亀川 雅人 (立教大学)

平成17年度第2回関東部会は、新潟国際情報大学（新潟市）で開催いたします。猛暑の中での開催ではございますが、関東地区の会員はもとより全国から多くの会員の参加をお待ちしています。非会員の方にもどうぞお声をおかけください。

開催日時：平成17年8月6日（土）13：30～18：30（受付：13：00～）

会 場：新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス 9階講堂

新潟市上大川前通7番町1169番地（JR新潟駅徒歩20分またはバス5分）

参加費：¥5,000（懇親会費を含む）なお、部会のみ参加の場合は¥1,000となります。

◇ 第1報告（13：30～14：25）

テーマ：「日本型人事制度の研究：成果主義導入のケース」

報告者：庄司祐子氏（NPO法人MBAキャリアデザイン研究所）

◇ 第2報告（14：30～15：25）

テーマ：「経営工学におけるシミュレーション技術の活用方法および教育方法」

報告者：佐々木桐子氏（新潟国際情報大学）

♪♪コーヒー・ブレイク（15：25～15：45）♪♪

◇ 第3報告（15：45～16：40）

テーマ：「情報サービス産業の経営課題」

報告者：内田賢氏（東京学芸大学）

◇ 懇親会 17：00～18：30（新潟の地酒と海の幸をご堪能ください）

○会場準備の都合上、「部会」および「懇親会」のご参加をFAXまたはE-mailにて頂きますと幸いです。また、詳細なご案内（往復の交通経路や会場までの案内図を含む）をお送りしますので、ご請求ください。

※ご参加のご連絡先・ご案内の請求先 開催校 青淵正幸（新潟国際情報大学）

FAX 025(259)3690（事務室） E-mail buch@nuis.ac.jp

編集後記

韓国経営教育学会との国際学術発表大会の実施、山城賞の成果、全国大会や関東部会の案内など、充実した研究に関する話題が多く、嬉しくなりました。 上野哲郎・加藤巖

発行 日本経営教育学会

東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館9F 〒100-8448
財団法人企業経営通信学院（担当：佐久間）
TEL 03-3282-6211 FAX 03-5220-4869
e-mail：name@yutorior.jp